東亞先鋒

1943. 9. 11

第1—2期

日文版

東亜先鋒

EASTERN-PIONEER

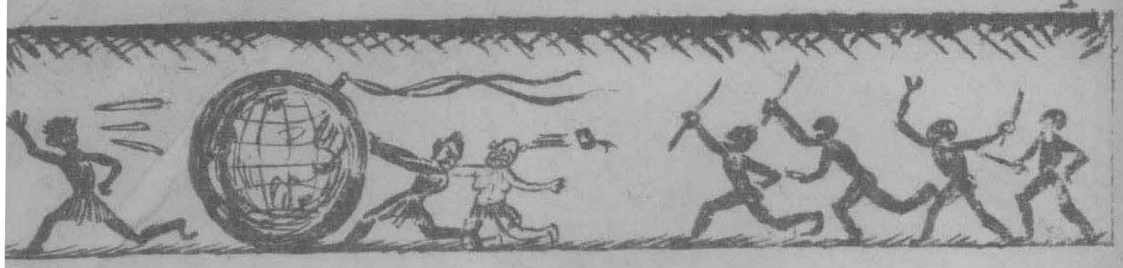
創刊号

1943.9.1

1

日文版

和平村東亜先鋒刊物社



目次

—創刊號—

表紙……汪川洋

主席林閣下逝去典禮弔辭……和平村新生活協會一同（二）

巻頭言……康川（一）

創刊之辭……莫敏（一）

祝詞……汪見治（一）

党部直轄第二所区分部（一）

中国文化史上に於ける三軌換点……朱（一）

論説 対日反攻への展望……岸本藤（一）

国際論文 崩壊の前夜に喘ぐ軸心陣線……斯波健治（一）

時評 日言 東條政権の分裂……池上敏夫（一）

在華日人反侵略戦線統一強化の為に

基礎委員會の提唱!!……長谷川敏（一）

時局展望 …… 江見 繁（二一）

長沙の血痕（第三次長沙作戦従軍記） …… 八木一男（二三）

自治記 ◆母 …… 曾根 竜（三一）

◆爆弾 …… 啄 水（四三）

劇曲 長江春寒 …… （新協劇団脚本部）北 一郎（三三）

時局漫画（二） …… ひろし（三四）

随筆 和平村二十四時間（和平村新生活協会歌） …… 江川 洋（四五）

新協文芸部（四八）

特輯!!『戦時日本の実情』 …… 本社調査部（四九）

和平村便り …… 本社特派員（五五）

祝・東亞先鋒・創刊 …… 韓国復興会 李 鍾（五八）

台湾 …… 時 載（五九）

本社スタッフ

編輯後記 …… 編輯部（六〇）

主席 林閣下の逝去典禮弔辭

本日全和平村を挙げて中國國民政府主席 林閣下の逝去典礼を営むに当り、我が新生活協会全員は祖國の喜ましいファシズムの咎刀下より脱れ出し、自由と平和を渇望する在華日本人民の集団として此の典礼に戮力参加し、以て誠心からの哀悼の意を捧げるものです。何となれば当面せる 閣下の地位は、東亜恒久平和の安定勢力たる中國抗戦事業の秀れたる一大領袖だったからです。かの米國特使の談話の中にも正又の共同作戦中に偉大な領袖を喪へるものとして衷心よりの追悼が送られておりますが、現在の我々にとっては更に痛惜の念を禁じ得ないものがあります。而して又今日の東亜の情勢は中國抗戦の極力支持による全東亜住民の大同的協同斗争によってのみ頑敵日本ファシストを殲滅しその最後的平和事取が早期可能なるを明に證されつゝあるからであります。我らは東亜の先覚者にして東亜の一大領袖たる 林閣下の逝去に対する全中國軍民の沈痛なる哀悼の波の中に心から融合し共に和せんとするものです。そして又かゝる哀々裡の中にも 閣下の遺嘱によってより強烈なる中華民族解放抗戦の英々たる熱意を我らは鉄の隊伍と中國の全民衆の眉宇に看取するのです。我らはこの更に明らかに國際大同の抗戦目的を重定し、堅実なる門ひと今後も續行せんとする鉄の隊伍に鐵証なる友誼的協力を為すことを茲に誓ひ、以って 閣下の大志の万分の一に応へ且つ 閣下の英霊を慰めんとするものです。

民國三十二年一月十六日

和平村 新生活協會一同

巻頭言

混沌たる世界の大変革の時代の車輪が猛烈なる勢と加速的スピードで驀進してゐる。生きとし生けるものはそれに移されつ、長日月に亘る不断の闘争と辛苦によりて全世界を暗黒のドン底に陥入れた軍事ファシズムの妖雲は漸く掃い清められんとし眩輝なる曙光は再び人類を自由と解放とそして有望と文明の光を投じつ、ある。

ゼネレーションは今之新時代に入りそして人類に送つものはより以上の努力と奮闘であり、唯一人としても沒閑たるを許されない「使命」や「傍観」は絶対その存在を認められないのである。

興亡を把握し正義の血潮湧き立つ我々は「眼目先鋒」を通じて熱烈な公に闘争し主張を天下に呼び分け、そして世界文明再建の指標を高掲し此の大時代に生れる人類の一員としての責務を全うせんとするものである。

——康博——

創刊之辞

莫敬儂
江見治 訳

蔣総統は其の著『中国の命運』中に於て、

「戦争の原因は何か？凡そ民族の間、国家の間、侵略性を帯びたる政治経済軍事の意識と行為及此種の意識と行為より育成されるところの関係と制度は総て戦争の原因である。

平直に之を言へば戦争の原因は即ち帝国主義である。故に第二次大戦の結束の為には同時に帝国主義の結束を必ず必要とし、かえしてこそ世界永久の和平は初めて堅実に保証されるのである。」

と述べられてゐる。

日本は東亜の帝国主義者である。今回の同盟国の勝利は僅に其の侵略行為の一つを結束させることは出来たが其の他の必要はまだ甚だ多いのであって決して撲滅されたのではない。必ず日本民衆の自覚、全に侵略戦争に因って圧迫されたことを痛感し、自己解放を求めることによってこそ初めて和平幸福を克ち得ることが出来るのである。

在華日本人の先覚者は善く此の点を認識し、ただに侵略性の政治、経済、軍事的行為を撲滅するのみならず其の意識をも剷除し、以て戦争の根源を徹底的に取除くことに依ってのみ永久の和平を保証し、中国民族をして誠心誠意その意見を相互に披瀝されてこそ亜洲の安定が確保されるべきであることを把握せるものである。

此等の識見は切実なる体験と其の国家社会の内在危機から生れたものであり、これに及文されて呉新聞紙上に発表されたが僅に数篇一二人のみを以て[illegible]

[illegible]

本誌を創刊するによつて、其の使命を十二分に発揮せしめ遂にはその国家民族を救ひ東亞を安定せしめ
るの志を鼓舞せしめんとするものである。
更に一歩進めて言へば 先輩の所謂「亞洲民族の自由と国家の平等は即ち世界の永久和平を保証する所以の
ものである」
この意義を徹底することが本誌のものであり、かゝる故に吾大東亞の先輩たるべきその責任を得た
ものである。
その祖国現代的社会が変革性の重圧に煩悩せるに鑑み、止むに止まれぬ批判の矢は遂に発して詩歌となり
て其の勇躍上流となり団塊となりて時局を刺戟し或は小説の描寫となりて社会の矛盾を剔抉し或は
短詩となりて世界の正義を明にせることは均しく深刻なる意味を含むものであり民主及び人の自由を手取せ
んとするものであり、斯くの如き湧き上る勇を為し之を導き開進せしめなければならぬ思潮を誘導せしめ
るのみならず 徒に文筆を以て華美を構成し僅に人格の陶冶に止まるのみである。
茲に本刊の意義があるものであり、識者諸賢幸にこの点を諒察されんことを望むものである

—完—

和平邦「東亞先鋒」創刊號

主持正義大聲疾呼振動愚迷爲東亞

民族福利奠定無窮永久和平的基礎

編輯者兼發行者 上海市愚園路分部陽鶴

中國文化史上に於ける三韓族の役割

江見治訳

今日『東亞先驅』が誕生した日です。私は此の力強い産声の咿咿の声を聞いた時、無限の歓喜を覚えました。私は此の誕生に際して何か話したいと切望してゐました。今日図らずも此の機会を得て本当に喜ばしく光栄に思ふのです。

この人達……日本の友達……は皆此から中国文化の諒解を頼つてゐる人々です。私は『中国文化問題』に関して話をしやうと考へた時、どうしても一つの大きな難関にぶつかります。中国は五千年の文化歴史をもつてゐます。此の五千年の文化の歴史を簡単に説明することは、丁度天文学が『二部二十四史』をして何から話し始めしめんとするや』と言つたのと同じ様に困難であると感じるのです。

中華民族が現在此の様な偉大な民族に発展したことは決して偶然ではなく、又決して武力に依つて成つたものではなく、全く自然力の発展によつて偉大になつたのです。この自然力の発展過程中において創成されたのが現在の中華民族であり、その原因は色々あるが、最大のものは中国が一種特有の文化を持つてゐたことです。

中国文化発展史上に於いて忘れてならないことは、三回の興亡盛衰があることです。孔子は中国儒家の始祖であり、中国の上古文化を大成し、秦漢の時代に秦の始皇帝が中国内部大小邦の統一後、中国内部の文学を全部統一し、最近の『五四』新文化運動は第三次の大変革であるのです。

中国文化は此の三回の変革過程中、何時も前進をつづけて後退はしてゐない。形式上は他民族の侵略の圧力を受けたことはあつても、実質上に於いては少しも影響を被つてはゐない。理由は既に話した様に中国五千年文化の発展が全く自然力によるもので武力では決して阻止することが出来ないものです。

私の今日の目的は文章を書くこと『無』なく『東亞先驅』の誕生を祝ふ言葉を述べたかつたのです。文章を書くとしても それはまだ此の反響、私たちの希望を満足させることは出来ないだらうし、又私自身もそれを願はないことだから。

（完）

對日反攻への展望

岸本勝

英米力軍のシシリー佔領・イタリー本土への空襲等は、二十一年間圧政を強ひしファシズム首領ムソリーニを怒り下台させた。スエーデンはナチスの一環からの脱退を宣布した。同時にまた他方・リ独戦線上に於ける赤軍の怒濤の如き最期総攻撃作戦はナチス主力軍をして致命的壊滅に陥ふつゝある。

カサブランカに於けるルーズベルト・チャチル会談に基づく英米ソの作戦——先づ全力を上げてドイツを撃滅し、然る後遠東で作戦し日本を解決する——が力強く実証され来した。

欧州の匪徒ナチスの宣傳相ゲリペルスが如何に誣言を弄ばそうとも、その崩壊は「早ければ今秋・遅くとも明春」といふ甚だしき詭弁さえ敢見するに至った。

欧州情勢がかゝる急変を告げた時・目前急変を見せてゐる遠東戦争は最近の将来に於て、欧州に於て進行されつゝある・對ナチス包囲殲滅戦がそのまゝ・日本の軍事ファシスト輩に対しても再演されるべきものとして重大視さるゝに到った。（第六次ルーズベルト・チャチル会談はこのことに関しての重要議題が包含されてゐるを伺へられる）これは尤に中国を始めとする反ファシズム全遠東人民の重大なる関心事である。

日・盟国の強大なる力量を以てすれば・對日反攻の勝利は誰しも疑を入れない所である。しかし・某外人評論家の稱するが如き「ナチスが潰滅したる後・日本を解決するには尚ほ二年を要するであろう」と云ふ悠長なる作戦ではなく、我等は如何に反攻の有利なる客観條件を把握するかによって一日も早く勝利を手取することが必要と思ふ。

では・對日反攻早期解決の可能條件は何か？

第一・日本の新聞「皇道保衛」したる全佔領地区の防衛軍事設備が完了せぬ中に反攻を開始することである。

その理由以下の通り：

日本の軍事ファシストらは長年蓄積したる軍事力

（問題解決は独伊の欧州制覇による世界的戦争の結果にのみしかなかりうることを知り、独伊の制覇の日まで食ひつないで英中国の協力を待つのが都合外務の基礎として南方政策及び南太平洋戦を次々と変更した。だが独伊の作戦全部は次々に失敗した。日本は遂に於ての独立作戦の危機を看破し、盟軍の反攻に備えるべき軍事設備に怠慢した。彼らは有利なる軍事根據地と広大なる作戦区の軍事資源によって戦勝を予想した。しかし、皇軍は一挙日本の防空圏を通ぶ軍事資源たり得なかった。といふのは皇軍能力と皇工業的基礎が余りにも不規模だったからである。おくて長期戦により平和を絶望し切ってゐる日本人民は更に厳苦的節約生活と超人的奉仕労働とが強要され、作戦全伯領区に対しては半植工物資の接収略奪フル・以つて船舶及び皇工業完成までの食ひつないが更に必要となってゐるのである。本年第八十二議会では強政・ビルマ・フィリッピン・蘭・泰新その他各国各民族に本年度中に政治的独立・若しくは一層の援助を与えるといふ約束を宣明し不足せる人力・物力を補足し以って所謂「決戦」に備へんと動員してゐるのである。（鹿野政直報第九期及第十期を参考とす。）

亜保護国の未完成独立期間に反攻することが最も有利である。

第二、条件として全面的反攻とその準備的攻撃としての中国戦場上の軍事的増強が上げられる。

対日作戦の早期結果のためには全面的包囲作戦の不可避的なることはすでに述べた戦略に敵しても最も力ふ所である。或る一地から他の一地へと言ふ作戦が如何に不利なるかは、曾て「賢明なるルーズベルトの唱破した如くである。といふのは斯かる戦術は日本の軍事アシストうまして部隊並び兵員の調動に餘裕を与えしめるものであり、即ふるに彼らの一貫して最も好むところの重点主義作戦を便ならしめ、盟国軍側の各個撃破を企図する危険が充分にあるからである。

某軍事専門家の観察の如き――南方根據地は国下日本々土と連力に帰つて居り日本々土を援護することは当然である。故に北アリューシャン方面を強化することによって日本々土を脅威する――は確に対日包囲網の造成といふことに於て一面有効ではあるけれども、充分とは云へぬであらう。

而して南方、思つても見よ！　南方根據地の確保は確に日本の北方に対する安全であらう。だが、

あるのだ。且つ軍事基地が北方として設備されて無い訳でもなく、又彼らは決して坐して死を待つ者もない。一地点に於ける反攻である限り日本は容易に堅固なる沿岸を派遣してこれに施すであろう。殊にフイリッピン・蘭印・馬来方面に於て確保せる特殊資源は絶対に確保するものと見なければならぬ。

例ロウラゲオストックが反攻基地として作成が計画された場合はどうか？　それは確に日本にとって大威脅であろう。しかしそれが一地点の攻撃であつたとする。やはり決定的大打撃を与えて早期に勝利を獲得するといふことはたやすいことではない。

補足的に攻勢の有利な解決は全面的に――西方北方からの反攻による直接本土への威脅と便衣日本の軍需倉庫とを通じ、ある南方の奪取と日本最主力の蟠踞せる中国戦場上等々一斉に――作戦開始が必要と云つて来る。

尤に日本軍主力の大半を勝着せしめてゐる中国戦場よりの反攻は重要であろう。何故なら、今日、日本帝国主義は中国征服ふくんで浮沈し得ないものであり、その大陸上よりの駆逐は彼の第一の死を意味し、且つ、これこそ日本軍事ファシストらの威力を決定的に崩壊せしめ得る有利な軍事基地を確保に導成

かく日本軍事ファシストの最終的運命を制し得るものが中国戦場だとすれば、緊急差し迫って要求されるものは、中国戦場上の軍隊の増強であろう。そのためには不充分な軍隊だけでなく陸上よりの大量的中国輸送が必須であるから海港及び陸上路の奪取が先決問題となって来るであろう。（昨日大公報社説も此の必要を説いた）。

目前の世界情勢から見てこの線の主張は決して遅すぎるとも早くはないであろう。然してそれは可能性の充分にあることである。昨日ケンナット将軍は千台の飛行機を中国に派遣すれば、対日制圧の可能なることを論じたが、更に確実な早期実現のためには、其の他の近代的装備を必要とする。これらのことは、今日一日の飛行機千台生産を誇る大米国にとって易々たることだからである。

第三に必要とするものは政治的措置である。

本月四日、英国にて中国の名外交部長宋先生は、中国の対外関係を声明せられた；「……中国は失地の收復を求めるが、決して領土的野心はない。中国の越南及び亜洲東南部、其の他の国家に対する関係は、聯合国の一份子としての地位より出発してゐる。……中国は失地の收復を求め、並びに新

朝の・独立を撃ち・日本の政府が民主政府となることを希望してゐる。蓋し日本が倘ほその他の方式の政府の統治を受ければ・必ず中國及び世界の威脅となるかりである。……

実に此の言は偉大なる達識と云ふべきであらう。何故なら此の言は・益々中國の正義抗戦を全世界に闡明せるものであり・且つ戦後・遠東各國に對する明瞭なる處置の基調は・全遠東の反ファシズム的各民族各人民をして挙って中國の聖なる抗戦を支持せしめ以って戦争の結果を早からしめるに効果あるものである。

我らは日本の軍事ファシズムを反対し・これを粉砕することによって自由と平和を争取する日本人民として率直に言はう・・

今日・日本人民は誰が戦争の挑發者であり誰が日本人民の自由と平和を剝奪し・戦禍と軍事監獄然たる生活の中に陥れたか・誰が真の敵かを一兵卒から一勞働者に至るまで皆痛切に中から確認してゐる。だが戦争に敗ければ亡国する・侵略しなければ侵略される・等々の危懼が・彼らを賭博させ軍事权力下に身促せしめてゐるのである。

若し・一度びかゝる危懼を彼らの念頭から消除することが出来たなら・日本人民は明然として中國抗戦と提携し・日本軍事ファシストらの侵略組織を内部より致命的破壊に導くであらう。

宋外長の言は盟国の対日反攻に最も正確なる指針を与えるものであり・遠東恒久平和獲得のために偉大な役割を果すものである。

現に在華日本人民は・これらのために〇〇〇名といふ君くが動きつゝある。

（八月二五日）

国際崩壊の前夜に喘ぐ軸心陣線

論文

斯波健治

序

戦乱極まりなき動乱世界の波紋は今やその最高潮を突破せんとしてゐる。

即ち日独伊の三独裁者をしてその根幹となす世界法西斯主義の崩壊と同盟国の民主々義勝利は今や決定的段階へと進みつゝある。

斯く複雑多端なる戦時と重大政局の動揺の渦巾に立つて我等が茲に維新『東亜光輝』を発刊し同時に此の紙上に若干所感を論述することの出来た事は誠に欣快として止まない所である。

夏季攻勢とヒットラー

蘇聯の対独夏季攻勢はドボロシスクに於ける独軍陣地の爆破に依つて開始された。

言ふまでもなく之は蘇軍がダマスク湾の独軍に猛攻を企図せんとするものであり、更に蘇軍タンク隊はクルクス南方の独軍の侵入を阻止し全面的反攻を開始したのである。

当時ヒットラーと既に夏季新攻勢を行ふべく蘇邊に於ける現有兵力二百十師及びイタリー附属各国の遠征軍百余師と更に五十万の兵力と四千に近いタンク、数千の飛行機を増援なし徹底的夏季新攻勢を敢行したのである。が而しナチスの此の新攻勢は却つて蘇軍の強固なる反攻に依つて粉砕されその成果は単に十チスがビルフラード附近の二ケ村落を占領したに過ぎずナチスがこの戦争に依つて損失したものはタンクだけでも二千輌に達してゐる。

吾々は斯く思ふ、光ゴナチスが今次夏季新攻勢失敗の原因は第一制空権を獲取することが出来なかつた事が蘇軍の主要防線の突破が不可能であつたこと、更に蘇軍の堅固なる実力と戦術に依るものであると。

之等は言ふまでもなく偉大なる領導者スターリンと其の充実せる軍隊に依つて規定されるものである。

思考するにヒットラーが此の夏季新攻勢を敢て敢行した所以は同盟国と蘇聯の配合行動即ち東西夾撃発動である。ヒットラーは此の危机を預側しこれを免れんとして今次の夏季新攻勢を急ぎ同盟軍の攻撃前に蘇軍の主力を粉砕せんとしたものと見られる。

而しヒットラーの此の企図は却って同盟軍の攻撃を積極ならしめ且蘇軍の反攻條件を徹底せしめに。

ヒットラーは今次戦争が長期段階に入るに従って同盟国の何れかが失敗する事を望み同時に同盟国の分裂を企図してゐる。が而し同盟国の堅固なる陣線は益々積極化しシシリー陸軍と云ふ具体的戦時が敢行されるに到った

――ムッソリニーの瓦解――

ヒットラー・ムッソリニーは同盟軍が地中海より進行すると言ふ事は既に預測し其の準備を為してゐたと雖も其の対應準備及び配備は同盟軍の海陸空の総攻撃に依って粉砕され独伊軍の惨敗はレテストニースを見聞するも明白である。

思考するにヒットラーがイタリー北部でムッソリニーと会談した

その談話の内容は先づ『同盟軍のシシリー上陸に対する緊急対應策』であり『附属各国よりの物資徴集』と言ふ問題である。

なんとなればムッソリニーが突然下台したと言ふ原因が特に軸心のチュニス及びシシリーの軍事的失敗でありムッソリニーがヒットラーよりの充分な援助を獲得出来なかつた事が其の主たる原因と見られる。而して此の影響に依って、更にイタリー国内に狂ってでは「ムッソリニー黒シャツ党」に不安を抱き「黒シャツ党」(法西斯党)打倒運動が濃厚となり、ムッソリニーの周囲は全く危机に直面したのである。

而してムッソリニーは独逸に逃避せんとしたが正規軍将校の為に捕へられた。

斯うした事実から推察するも如何にムッソリニーが其の危机に迫られてゐたかは思考するに難くない。

尚現在では独軍は漸々イタリー及びシシリーに援軍を増加中であると雖も「ヒットラーが誇りとする欧州保塁」の維持は到底不可能事に等しい。

既に同盟軍のシシリー攻略に依って第一次の失敗を為し亦之と呼應する如くユーゴスラビヤの愛国志士はダルマデア郡島に於ける伊軍兵営を襲ひ、更にルーマニア・ハンガリー・チエッコスロバキア等には均しく大規模の変乱が起り、ヒットラーの最後の頼みとする欧州保塁に対する脅威は益々強加され今や全く絶望に近い運命となつたのである。

――東條の奔走――

最近太平洋の戦局が混沌してゐる観があるがその原因は日本が目下準備時期にあるを為と見られる。

なんとなれば日本は自から「今数ヶ月は日本の国運の最厳重の時であり、生死存亡は此の一戦にあり」と言つてゐる。

所謂「時局対策要綱」等の基礎的一編を構ふものである。

尤も此の「企業整備」に就いて若干述べて見よう。

即ち「企業整備」は従来の生産配給機関の合理化等とは異なり、凡そ戦時の最重要なるべき所謂産業は全部整理を加へ之に因って得る労力資料、電力、資金等を全部重要産業部門に集中せしめる。

其の意義と規模は劃期的であり、決戦段階に充分適應せしめることが可能だと言ふ。

整備の対象は平和産業、中小商工業は言ふまでもなく概して重要産業と大企業部門も亦相当の影響がある。

この極めて大規模の整備は今後日本の各種産業を完全に戦時色を以って塗りつぶすと言っても決して過言ではない。

斯る見地から東條が泰国、シンガポール、スマトラ、ボルネオ、フィリッピン等の視察に赴き占領地区内の資源及び人力の動員を準備し、同時に南洋司令官等内地会議し、均しく南洋の情形を視察した事等は極めて注目するに価するものであろう。

殊東條が泰国に於ってビルマ及びマレーの一部の土地（二万七百七十方哩）を泰国に割譲した事等は、恩かに泰国一般民衆の好感を求めんとする手段であ

る。

則ち治安維持の強化及び同盟軍の攻勢に対する防禦策にもなるものであろう。

更に日軍の汪精衛の偽軍数万を以て各戦区の中国軍に対意せしめてゐる如きは、今次の日本国内に於ける「企業整備」の実施、東條の奇襲の真意が如何あるものであるかを推察するに難くない。

更に緊要な問題の一つは東條が重臣及び重要閣員を召集し特別作戦会議を挙行した。

その出席者に前任首相七人がある。先づ若槻、岡田、平沼、近衛、米内、広田、阿部、枢密院議長、顧及び現閣員和田、青木等である。

思考するにこの特別作戦会議は上述の企業整備問題を中心として東條の南洋視察の情形報告と今後の対應策であり、更に東條が特に前任者相を招いた事は言ふ迄もなく東條の最後の攻勢が失敗に終った場合の前後策を豫め協議したものと見られる。

既ち失敗の場合は所謂米英及重臣、ロンドン條約派及び天皇機関論者等の反対西新派と稱するものを以て組閣させ、対米外交を優利にして講和策に若干とするものと見られる。

斯る見地から推察するに日本が自から「生死、存亡の一戦」と稱するのも無理からぬ事であり、今後の

東條の一挙手一投足が極めて重大であることは論を俟たない。

更に関東軍をしてその増強を計り山下をその司令になさしめた事等も注目するに価するものであろう。

結論

以上述べたるものは勿論軍事的動向の部分的問題ではあるが結局此の軍事動向の優劣如何は国内の経済的力量の如何にかゝわるものである。

独逸が既に対蘇攻略の失敗及びヒットラーの頼みとする欧洲保塁の挫折等はその戦術と政策に依るものであると雖も結局ヒットラーの独裁政治の腐敗と上述の如く国内経済力量の虚弱に因るものである。

たゞ独逸の軍事資源に就いて若干参考を述べるならば、独逸はその必需項目三十四種の内自給出来るのは僅か六種に過ぎない中でも最も重要な石油の欠乏は百分の七十六、鉄の欠乏は百分の八十九であり、ゴム及び銅の欠乏は百分の九十三、綿花は百分の百の欠乏である。

更に食糧の欠乏は百分の三十等であるが而し之は戦前に於ける統計であり戦時に於ては更に数倍以上にその需要は増加してゐる。

特に戦時に於ける[illegible]の事の如きは平時に較べて百分の[illegible]

る。斯くして之が不足の補給は該占領地より強制徴用に依って辛じて助けられてゐるのである。而し上述せる如くナチス占領の各小国家及び占領地には夥しく騒乱が起り更に反ナチス運動が濃厚となり、独逸向け各種必要物資の輸送は極端に減じられヒットラーの所謂欧洲保塁はその危机を脱することは出来ない。

斯る見地から考察するに経済力量の強弱が如何に政治的軍事的動向の優劣を規定するかゞ明白である。

亦日本が実施しつゝある「企業整備」と東條が各地を巡し各占領地に於ける資源、人力の動員に集中してゐる事等はいづれもナチス独逸の「経済的危机」に何等異ったる性質を有するものである。

斯くして彼等が此の危険な「線香花火」「経済基礎」の上に立って「強固盟邦」を征服[illegible]の目的を遂行することは果して可能であるか否かは改めて論述する迄もない。

今や同盟国の民主政治とその絶大なる力量の前に枢軸心をして唯無條件降伏か最後の瓦解の何れかを選ぶ方向しか与へられてゐないのである。

従って上述の如き[illegible]の特別作戦会議に於ける「夫数の場合」の対應策等は言葉成立し得ない問題である。